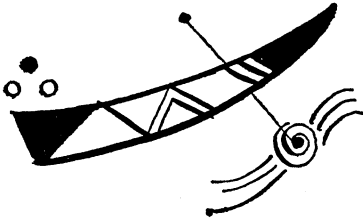


欧文誌アブストラクト



■ An approach to the GRM Performance Analysis by Asymptotic Approximation

西垣 通 (日立)

野口健一郎 (日立)

大町 一彦 (日立)

Vol. 3, No. 2 (1980)

一般資源管理方式 GRM (General Resources Manager) のもとでのシステム性能を解析するひとつの試みを示す。GRM は、多重プログラミング・システムの処理能力/応答性向上を目的として、計算機資源の割り当て優先度を周期的に調節する体系である。GRM は複雑な体系であり、従来その制御効果の検討はシミュレーションないし実測によるほかはなかった。

本論文は、第一に、固定優先度制御および有限実メモリ容量のもとでのシステム性能に着目し「漸近モデル」とよぶ近似手法を提案する。本モデルによる応答時間予測の有効性をシミュレーションにより検証する。第二に、本モデルにもとづき GRM の制御方策の妥当性を論ずる。さらに GRM の動的優先度制御のもとでの性能予測の方法につき考察する。

■ An $O(p^3)$ Algorithm for Finding Hamiltonian Cycles in Certain Digraphs

高見沢一彦 (東北大学)

西関 隆夫 (東北大学)

斎藤 伸自 (東北大学)

Vol. 3, No. 2 (1980)

有向グラフのハミルトン閉路を求める問題は、NP-完全問題の一つであり、有向グラフがハミルトン閉路を持つための必要十分条件は知られていない。しかし、ハミルトン閉路が存在するための十分条件は、これまでも幾つか示されている。Meyniel は、節点数 p の有向グラフにおいて、互いに隣接しないどの 2 点

u, v に対しても $d(u) + d(v) \geq 2p - 1$ ならば、ハミルトン閉路が存在することを示している (ここで $d(v)$ は、節点 v を始点あるいは終点とする枝の本数である)。この条件は、これまで知られている十分条件の中で最も良い条件の一つである。本文では、Meyniel の条件を満足する有向グラフのハミルトン閉路を $O(p^3)$ の計算時間内に求めるアルゴリズムを提案する。本アルゴリズムは、Bondy, Thomassen らによって示された Meyniel の条件の証明に基づいている。

■ NP-Completeness of the Hamiltonian Cycle Problem for Bipertite Graphs

秋山 高德 (東北大学)

西関 隆夫 (東北大学)

斎藤 伸自 (東北大学)

Vol. 3, No. 2 (1980)

二部グラフ G がハミルトン閉路を持つかどうかを決定する問題を考察する。この問題が NP-完全であることを二部グラフの次のクラスについて示す。すなわち、2-連結、3-正則、平面、二部グラフ、および 3-連結、3-正則、二部グラフという二つのクラスである。したがって、このようなクラスのグラフ、あるいはこれを含むより大きなクラスのグラフにおけるハミルトン閉路問題は、おそらく、計算上、手に負えないであろう。

■ Design and Implementation of a Multi-passcompiler Generator

佐々 政孝 (東京工業大学)

徳田 淳子 (東京工業大学)

井上 謙蔵 (東京工業大学)

篠木 剛 (富士通研究所)

Vol. 3, No. 2 (1980)

本論文では、多パス構文解析と最適化を行うコンパイラを自動的に生成するコンパイラ・ジェネレータ (コンパイラ・コンパイラ) について述べる。まず、多パス構文解析の概念が示され、それをコンパイラ・ジェネレータ上で実現するための新しい機構が記される。

コンパイラ・ジェネレータへの入力記述は、それ自身コンパイラ、ならびに使用者プログラムの実行時環境との、完全に読みやすい記述になるように設計されている。すなわち、語い解析は正規表現を用いて記さ

れ、各パスの構文と意味は変形属性文法を用いて記される。実行時プレリュード等もこの記述に含まれる。

コンパイラ作成には多くの労力が要求されるが、このコンパイラ・ジェネレータでは、コンパイラの逐次的または部分的な生成、再生成が可能であり、使用者の負担は軽減される。

■ Analysis of Clustering in Linear Probing

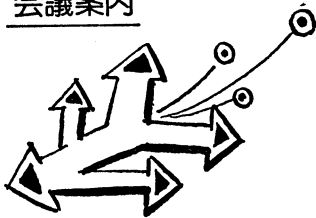
村尾 裕一 (東京大学)

Vol. 3, No. 2 (1980)

リニア探索におけるクラスタリングについて、ユニ

フォーム・ハッシングにおける場合と比較して、数学的解析を行った。クラスタリングの起り方を定式化することにより、クラスタの確率分布を導出し、これを用いてクラスタリングの悪影響を定量的に明らかにして表探索数を表わした。さらに、解析結果の応用として、リニア探索を並列的に処理するアルゴリズムの性能解析を行った。

会議案内



《国際会議》

会議名 Working Conference on CAD Data Bases
 主催 IFIP WG 5.2
 開催期日 1981年9月14日～16日
 開催場所 Seeheim (near Frankfurt, West Germany)
 テーマ CAD Database methodology
 Access and programming
 Application aspects
 論文締切 1980年12月31日
 提出先 Prof. Dr. J. Encarnacao
 TH Darmstadt-FB Informatik
 Steubenplatz 12, 6100 Darmstadt FRG
 問合せ先 〒153 目黒区駒場 4-6-1
 東大宇宙研 穂坂 衛
 Tel. 03(467)1111

会議名 Eurographics 81
 主催 European Association for Computer Graphics
 開催期日 1981年9月9日～11日

開催場所 TH Darmstadt
 テーマ Computer Graphics の各分野
 論文締切 1981年1月15日
 提出先 Prof. Dr. J. Encarnacas
 TH Darmstadt-FB Informatik
 Steubenplatz 12, 6100 Darmstadt FRG
 問合せ先 〒153 目黒区駒場 4-6-1
 東大宇宙研 穂坂 衛
 Tel. 03(467)1111

会議名 Fourth Annual International SIGIR Conference
 主催 ACM
 開催期日 1981年5月31日～6月2日
 開催場所 Claremont Hotel in Berkeley (California, USA)
 テーマ Theoretical Issues in Information Retrieval
 申込締切 1980年12月1日までに梗概4ページ(ダブルスペース)を下記に送付のこと(講演時間30分)。
 申込・問合せ先
 Dr. Jessie Herr
 Research Libraries Group
 Stanford University
 Stanford, California 94305

会議名 First Working Conference on Computer

Application in Food Production and
Agricultural Engineering

主催 IFIP TC-5

開催期日 1981年10月26日～30日

開催場所 Habana (Cuba)

トピックス

A. General technologies

1. Data banks: data storage, retrieval and analysis.
2. System simulation: modeling and analysis.
3. Information processing: computer communications and information transfer.

B. Subject areas

1. Policy and planning analysis: regional and national.
2. Farm-level decision making: management, pest control, irrigation.
3. Equipment design and control: computer aided design and computer controlled

equipment.

定員 50名, 参加は招待者に限られます。

参加申込 招待ご希望の方は規定の質問用紙(国内連絡先にあります)によりお申込み下さい。

論文申込 論文発表をご希望の方は, 参加申込時に, 英文300~500語のアブストラクト3部を添えてお申込み下さい。

申込先 O. Olivera

International Program Committee Chairman

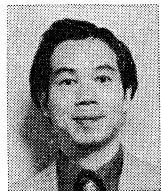
Instituto de Matematica, Cibernetica y Computacion Academia de Ciencias Habana 2 Cuba

申込締切 1980年10月31日

国内連絡先 川崎市高津区宮崎 4-1-1

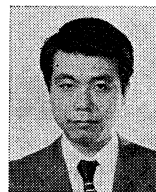
日本電気株式会社 C & C システム研究所
三上 徹 (IFIP TC-5 委員)

Tel. 044-855-1111 (内線 2290)



國井 利泰 (正会員)

昭和13年生。昭和37年東京大学理学部化学科卒業。昭和42年同大学院博士課程修了。理学博士。現在、東京大学理学部情報科学科教授。データベース・アーキテクチャならびにソフトウェア工学に関する研究を行っている。“Data Structures, Computer Graphics, and Pattern Recognition”(Academic Press, 共編)等。ACM Trans. on Database Systems 編集顧問, IEEE COMPSAC 論文委員, International Journal of Information Systems 編集顧問等, 情報処理学会ソフトウェア工学研究会主査。



小林 要 (正会員)

昭和22年生。昭和45年北海道大学工学部精密工学科卒業。昭和50年同大学院博士課程修了。工学博士。同年より富士通(株)国際情報社会科学研究所に勤務。線形システム同定誤差, カルマンフィルタなどの研究を経て, 現在ソフトウェア工学, データベースシステムの研究に従事。日本自動制御協会, 計測自動制御学会各会員。



芝田 寛二 (正会員)

昭和15年生。昭和39年信州大学工学部電気工学科卒業。同年, (株)日立製作所コンピュータ事業部入社。システム・プログラムの設計・検査業務に従事。昭和44年のソフトウェア工場独立以来, 一貫して, ソフトウェア生産管理方式の開発と生産管理業務に従事。現在, ソフトウェア工場技術部管理課長。



本池 洵

昭和18年生。昭和41年法政大学工学部経営工学科卒業。同年日本ユニバック(株)に入社。会話型ALGOLの開発、エグゼクティブ・システムのライン管理、航空座席予約システムの開発等に従事。現在営業統括第五部システム部所属。



上條 史彦 (正会員)

東京大学工学部電気工学科卒業(昭32年)。MIT スローンスクール卒業(修士, 昭42年)。著書: オペレーティングシステム入門(昭44, 日本生産性本部) シミュレーションの理論(訳, K.D. トッカー著, 昭46, 日本生産性本部) プログラミングPL/I 入門(共著, 昭47, 日本生産性本部) データベースシステム(コンピュータサイエンスシリーズ, 昭47, 産業図書)。情報処理振興事業協会開発振興部長。



花田 收悦 (正会員)

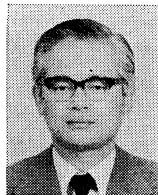
昭和15年生。昭和37年東北大学工学部電子工学科卒業。昭和42年同大学院工学研究科電子工学専攻博士課程修了。同年日本電信電話公社入社。電気通信研究所において、DIPS-1 OS, DIPS ソフトウェアの品質保証、言語処理プログラム、ソフトウェア生産技術の研究実用化に従事。現在、横須賀電気通信研究所データ処理研究部処理プログラム研究室長。工学博士。電子通信学会会員。



菅野 文友 (正会員)

昭和4年生。昭和27年3月東北大学理学部地球物理学教室卒業。日本電信電話公社東北電気通信局および電気通信研究所を経て、昭和35年1月(株)日立製作所入社。戸塚工場、神奈川工場、ソ

フトウェア工場に勤務し、設計部長、検査部長、副技師長。昭和50年6月岩手大学工学部教授(情報工学科)。単独著書「情報やデータのメカニズム」, 「ソフトウェア・エンジニアリング」, 「ヒューマン・エラーのメカニズム」, 「信頼性工学」, 他共著。工学博士。現在の関心; 信頼性工学, ソフトウェア工学, 品質管理, データ解析。電子通信学会, 日本オペレーションズリサーチ学会, 日本品質管理学会, 計測自動制御学会, 日本人間工学会, 日本ME学会, 電気学会, 等会員。技術士。



高村 眞司 (正会員)

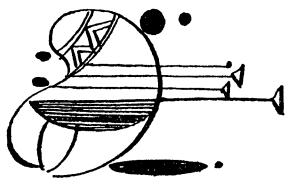
昭和7年1月18日生。昭和30年早稲田大学第一理工学部電気通信学科卒業。日本電信電話公社横須賀電気通信研究所勤務。電子交換機, 電子計算機(DIPS)のソフトウェアの実用化を担当。著書: 「電子交換ソフトウェア入門」(電子通信学会, 昭51年) 「Software design for electronic switching systems」(IEEE '79)。電子通信学会会員。



東 基衛 (正会員)

昭和14年生。昭和38年早稲田大学第一理工学部工業経営学科卒業。同年日本電気(株)入社。ユーザアプリケーションシステムの設計, 開発, プロジェクト管理などに従事。その後ソフトウェアの標準化, 効率化を担当し, STEPS, ISDT の開発を総括。現在, 同社ソフトウェア生産技術研究所管理技術開発部技術課長。元工学院大学講師, 現在早稲田大学講師。主な著書に「コンピュータソフトウェアの標準化」日本経済新聞社がある。日本工業経営学会会員。

研究会報告



◇ 第24回 計算言語学研究会

{昭和55年8月21日(木), 於機械振興会館地下3階1号室, 出席者20名}

(1) 実用的な漢字符号系作成の試み

門脇信夫(金沢工大・情報処理工学)

[内容梗概]

本報告は、マイクロコンピュータなどを用いた小規模システムでも扱える漢字符号系と漢字交り文データの取扱い形式について述べたものである。

漢字符号系は JIS-8 符号を基本形として、ひらかな、カタカナ、漢字に対する符号化をおこなった一例を示している。また、漢字交り文の手軽なキー入力方法とそのデータの格納形式についてもふれた。

(計算言語学研資料 80-24)

(2) 日本語文向き点字符号系作成の試み

門脇信夫(金沢工大・情報処理工学)

[内容梗概]

本報告は、電子計算機内にある日本語文の点字化が容易な点字符号系について述べた。

現在、広く用いられている Braille 点字への普通字文の変換には複雑な処理を必要とする。これはカナ点字文における多くの規則のためである。そこで計算機で扱う符号系と変換容易な方式で4点点字(インデックス付)を基本形体とする点字符号系を提案し、これが普通字と点字の相互変換容易でまた盲人用点字としても有効に利用できる性質をもっていることを示した。

(計算言語学研資料 80-24)

(3) 日本語の数表現の解析

田中康仁(日本ユニバック)

[内容梗概]

日本語の数表現はどのような形式でなされているか、それらの特徴はどのようなものであるか解析した。

日本語解析の最初の問題となる分かち書きの問題解決のため、数表現を解析することによって、その文の持つ意味を把むためにおこなった。日本科学技術情報

センターの抄録ファイルをもとにして KWIC を作成し、この資料を分析した。また国語辞典を分析し漢数字が用語として使われる場合を抽出した。

このような解析を通し

- 1) 数表現の形式 前置助数詞、数表現の名詞等のテーブルの収集
- 2) 漢数字の特徴
- 3) 概数の表現方法
- 4) 数の幅を表現する方法
- 5) 漢数字とアラビア数字の表記のゆれの各種特徴がわかった。

これら解析は特徴を抽出するという段階である、数表現の各種テーブルを充実させることにより、この研究をさらに発展させたい。

(計算言語学研資料 80-24)

(4) 日本語文論文タイトルからのキーワード自動抽出システム(JAKAS)

荒木啓介(日本科学技術情報センター)

[内容梗概]

日本語漢字カタカナの連を、切断すべき文字と、その文字が作る熟語を集めた辞書により、熟語をマッチングしたときはパスし、それ以外は切断する、という方式を基本として切断し、キーワードを自動抽出するシステムを開発している。主として助詞、接続詞により自動分かち書きするのみでは78%程度の適切なキーワードしか得られないが、このシステム完成により、95%以上の良質なキーワードの抽出が期待される。

(計算言語学研資料 80-24)

(5) Terminology Data Bank について

長尾 真(京大・工)

[内容梗概]

Terminology Data Bank(専門用語集)のヨーロッパの現状、特に Siemens の Data Bank について Schulz の考え方を紹介した。次にウィーン Infoterm の Terminological Data Elements の考え方について Infoterm の H. Felber の提案を紹介した。

(計算言語学研資料 80-24)

◇ 第15回 ソフトウェア工学研究会

{昭和55年9月5日(金), 於機械振興会館地下3階1号室, 出席者15名}

(1) DNM: Dynamic Nesting Method

北川博之, 國井利泰(東大・理)

[内容梗概]

リレーショナル・データベース上での応用プログラムの開発をサポートするためのデータベース・エンジニアリング・ツールの基礎となる。DNM (Dynamic Nesting Method) について述べた。DNM では、リレーショナル・データベース中のフラットなリレーション中に、個々のデータ応用目的に適合した階層構造をユーザが手軽に導入することを可能にした。これによって、データベースの応用要求仕様の記述および応用プログラムの作成等の面での作業の軽減化が期待できる。ここでは、DNM で必要となる4つのDN演算子を定義し、その基礎的性質について例を用いて説明を行った。(ソフトウェア工学研資料 80-15)

(2) デザイン展開のための機構

山口和紀, 國井利泰 (東大・理)

[内容梗概]

展開していった、しだいに詳しくデザインしていくデザイン展開の基本的な枠組みを定式化し、デザインエンジンと名づけた。このデザイン・エンジンは多様なデザイン方式に対応できるだけでなく、ネスティッド・テーブルのように事務の分野にまで応用可能である。ここでは、デザイン・エンジンの定式化、実現法、応用、そして若干の性質について研究した。

(ソフトウェア工学研資料 80-15)

(3) インタラクティブ設計システム SID

原田 実(ジャパンスシステム), 國井利泰(東大・理)

[内容梗概]

インタラクティブ設計支援システム「SID」の機能が紹介されている。SID は再帰グラフ形式論「RGF」に基づいている。RGF の基本理念は、設計の視覚性と正確性の結合および設計結果と設計過程の共有化である。設計の視覚性は設計の再帰グラフで記述することにより得られる。一方正確性は再帰グラフの形式性より得られる。設計過程は、それらを再帰グラフ作用子の列として定義することにより共有化できる。共有設計過程として、設計統合・簡略作用子、設計解析・評価作用子および設計調査作用子が挙げられている。これらは例として並行システム設計に応用される。

(ソフトウェア工学研資料 80-15)

◇ 第 21 回 データベース管理システム研究会

{昭和 55 年 9 月 11 日 (木), 於機械振興会館地下 3 階 1 号室, 出席者 30 名}

(1) 富士写真フィルム(株)データベース

中井六郎 (富士写真フィルム)

[内容梗概]

52 年 1 月に ADABAS を導入以来、30 を越えるアプリケーション・システムに適用されてきた。当社が DBMS 導入に至った背景および経緯を述べるとともに、運用システムの形態および 2, 3 のアプリケーション・システムを例に、その適用事例を紹介し、適用業務の特色、DBMS による効果等にふれてみた。最後に DBMS 定着後の ADABAS の位置付け、MARK IV との関連、全般的な効果、更に今後の方向性といったものにふれてみた。

(データベース管理システム研資料 80-21)

(2) 分散型データベースシステム JDDBS におけるスキーマ層設計とアクセス問題について

滝沢 誠 (情報協)

[内容梗概]

本論文では、統合型分散型データベースシステム JDDBS における全体アーキテクチャ、およびこれのもとでのスキーマ層設計およびアクセス問題への解を示した。この 1 つは、DBS の異種性を解決するための共通モデル・スキーマ層の設定と、共通問合せをその DBS 言語への変換方法である。ほかは、分散した DBS から 1 つの論理的 DBS への統合方法と、DDBS に発せられた問合せを各サイトまたはサイト間で実行させる方法である。

(データベース管理システム研資料 80-21)

(3) DB システムにおける排他制御のスケジュール方法の評価

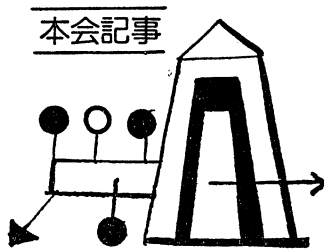
辰己俊文, 松下 温, 川村克彦,

川上 英 (沖電気)

[内容梗概]

DB システムの排他制御に physical lock 方式を採用した場合のロックスケジュール方式を、処理要求を単位としてロックする方法と、action (処理要求を、アクセス対象で分解した単位) を単位としてロックする方法とに分類した。この両者の適用領域を解析するためにに行ったシミュレーション結果について報告した。結果は、処理要求が単純で、DB 更新要求が少ない領域についてのみ後者が有効であり、ほかは前者の方が有効であることが明らかになった。

(データベース管理システム研資料 80-21)



第 236 回理事会

日 時 昭和 55 年 7 月 17 日 (木) 17:30~19:30
 会 場 機械振興会館 6 階 65 号室
 出席者 小林会長, 高橋, 田中各副会長, 河野, 平澤, 淵, 山本各常務理事, 澤田, 井上, 浦城, 佐川, 瀬野, 長尾, 長谷川, 宮城, 和田各理事, 重井東北支部長.
 (事務局) 菅谷事務局長, 坂元局長代理, 田原課長.

議 事

1. 総務関係 (平澤常務理事, 長谷川理事)
 - 1.1 昭和 55 年 6 月期に会議を 63 回開催した.
 - 1.2 会員数の現況 (7 月 16 日現在)

正 会 員	14,394 名
学 生 会 員	479 名
賛 助 会 員	188 社 (295.5 口)
2. 機関誌関係
 - 2.1 会誌編集委員会 (飯村常務理事, 宮城理事)
 第 33 回会誌編集委員会議事録により「情報処理」第 21 巻 8 号~10 号の編集を順調にすすめている旨説明があり, 了承された.
 - 2.2 論文誌編集委員会 (川崎常務理事, 長尾理事)
 第 31 回論文誌編集委員会議事録により, 本日午後 1 時 30 分より開催の第 32 回論文誌編集委員会の審議をふまえて, 論文誌の編集が順調に行われている旨説明があり, 了承された.
 なお, 論文の投稿を勧誘いただきたい旨要望があった.
 - 2.3 欧文誌編集委員会 (和田理事, 伊藤理事, 三井理事)
 第 34 回欧文誌編集委員会議事録により, Vol. 3, No. 3 を 20th Anniversary of IPSJ とし, 20 周年記念入選論文 (7 編) の英訳論文が査読中である旨説明があり, 了承された.

なお, 欧文誌と論文誌 (邦文) との性格の違いについて意見が出された.

3. 事業渉外関係 (河野常務理事, 澤田理事, 佐川理事, 瀬野理事)
 - 3.1 第 22 回全国大会
 去る 7 月 11 日 (金) 開催の第 1 回運営委員会報告により説明があり, 下記の通り決定した.
 - (1) 日 時 56 年 3 月 24 日 (火)~26 日 (木) の 3 日間とする.
 - (2) 会 場 学習院大学 (豊島区目白) とする.
 - 3.2 Auerbach 氏学術講演
 去る 7 月 4 日付の文書で, Auerbach 氏に, 10 月 15 日 (水) 14:00~16:00 に機械振興会館で学術講演をお願いしたい旨, 会長名で連絡した.
 (ただし, Auerbach 氏の都合で, 10 月 16 日 (木) 教育会館に決定した)
 - 3.3 創立 20 周年記念事業について
 去る 5 月 20 日 (火) に開催された創立 20 周年記念祝典における出席者数は式典 192 名, 講演 230 名, 祝賀会 265 名, 経費は 617 万円で盛大かつ和やかに行われた旨報告があり, 了承された.
4. 調査研究関係 (淵常務理事, 浦城理事)
 - 4.1 調査研究運営委員会報告
 去る 7 月 3 日 (木) に第 31 回運営委員会を開き, 55 年度の各研究会, 研究委員会の活動計画ならびに予算の配算につき審議し, 原案どおり了承された旨説明があり, 了承された.
 - 4.2 規格委員会報告
 去る 6 月 17 日 (火) に開かれた規格委員会で次の点が決定した旨口頭にて説明があり, 了承された.
 - (1) 委員の交替
 幹 事: 海宝 顯 (日本 IBM)→池田芳之 (日本 IBM)
 委 員: 細田泰雄 (東芝)→八木正博 (東芝), 筑後道夫 (横通)→戸田 巖 (横通), 石橋秀雄 (日本 NCR)→尾沢好一 (日本 NCR)
 - (2) ISO/TC 97/SC 8 (NC 関係) だけを日本工作機械工業会へ移すこととなった.
5. 国際関係 (山本常務理事, 井上理事, 瀬野理事)
 - 5.1 前回理事会の決定により, 去る 7 月 11 日 (金) に田中副会長を委員長として, 「国際会議に関する検討会」を開き, 下記の通り検討した旨, 説明

があった。

- (1) 4th UJCC (日米コンピュータ会議)
定例の1981年開催は見送り、将来の検討課題とする。
- (2) 6th ICSE (ソフトウェア工学国際会議)
共催(呼称)あるいは共同主催いずれにせよ、実質的な参加予定者、予算額など実質的に再検討のうえ、次回理事会に再提案することとした。
- (3) 国際会議関係に関する規程を検討することとした。
- 6.2 第8回世界コンピュータ会議の7月15日(現在)の登録状況は、総計1,039名(うち海外152名)であり、当初予定からみて出足が鈍いので、「各社に参加を促進していただきたい」旨要望があった。

機関誌関係委員会

○第34回会誌編集委員会

8月20日(水)17時30分から機械振興会館 B3-9号室で開催された。

(出席者) 飯村常務理事、宮城理事、池田、井田、川合、河津、斉藤(久)、斉藤(信)、白井、杉本、鈴木、高井、武田、田村、戸川、徳田、松本、山本(昌)、吉村(一)、渡辺各委員

(事務局) 坂元、山田、梅本

議 事

- (1) 会誌21巻10号(特集号)、11号、12号(小特集号)の編集状況につき説明があった。
- (2) 各WGの作業状況の報告
- (3) 来年の特集号のテーマについて各WGで原案を検討いただくこととした。

○第35回会誌編集委員会

9月10日(水)17時30分から機械振興会館 B3-2号室で開催された。

(出席者) 宮城理事、井田、加藤、川合、河津、斉藤(久)、斉藤(信)、志村、白井、杉本、富田(悦)、富田(正)、星、山本(毅)、山本(昌)、吉村(一)、若杉、渡辺各委員

(事務局) 坂元、山田、梅本

議 事

- (1) 21巻11号、12号の目次を一部修正し、22巻1号のとりまとめをした。
- (2) 来年の22巻4号小特集号および同6号大特

集号について検討した。

- (3) 巻頭言の理事による執筆(案)を決めた。

○第32回論文誌編集委員会議事録

7月17日(木)13時30分から機械振興会館6階号室で開催された。

(出席者) 長尾理事、真名垣、溝口、山下、米澤、渡辺各委員

(事務局) 山田、渡辺、梅本

議 事

- (1) 論文誌21巻5号(9月号)、6号(11月号)の編集をすすめた。
- (2) 投稿論文の査読状況について審議した。
- (3) 論文の採否の通知の様式について検討した。

○第35回欧文誌編集委員会

9月2日(火)17時30分から機械振興会館6階62号室で開催された。

(出席者) 和田委員長、伊藤副委員長、大須賀、木村、三上、山田各委員

(事務局) 坂元、木村、山田

議 事

- (1) 欧文誌 Vol. 3, No. 2 および No. 3 の発行を間に合わせることを確認した。
- (2) 投稿論文の査読状況につき報告があった。

各種委員会 (1980年8月21日～9月20日)

- 8月21日(木) 計算言語学研究会
国際会議検討委員会
- 8月27日(水) IFIP 80 フィルム試写会
IFIP 80 シンポジウム委員会
- 8月29日(金) SW 国際会議委員会
- 9月1日(月) マイクロコンピュータ研究会
情報処理専門教育研究委員会
- 9月3日(水) IFIP 80 フィルム試写会
- 9月5日(金) ソフトウェア工学研究会・連絡会
- 9月8日(月) ALGOL 委員会
日本文入力法研究委員会
総合 CAD/CAM 研究委員会
- 9月11日(木) データベース管理システム研究会
データベース工学研究委員会
- 9月16日(火) 電子装置設計技術連絡会
IFIP 80 実行委員会
人工知能と対話技法研究会・連

絡会

計算機アーキテクチャ研究会・
連絡会

- 9月18日(木) コンピュータビジョン研究会・
連絡会
分散処理システム研究会
数値計算研究委員会
- 9月19日(金) ソフトウェア基礎論研究委員会
- 9月20日(土) ソフトウェア基礎論研究委員会
〔規格関係委員会〕
- 8月21日(木) SC 1/WG 1, SC 6/WG 1,
SC 16/WG 5
- 8月22日(金) SC 3
- 8月25日(月) SC 6/WG 2, JIS FORTRAN,
JIS FORTRAN WG 1, WG 2,
WG 3
- 8月26日(火) SC 7, SC 16/WG 6
- 8月28日(木) SC 16/WG 1
- 8月29日(金) SC 6/WG 3, SC 15/WG 3
- 9月2日(火) SC 16/WG 4
- 9月3日(水) SC 15, JIS 磁気テープカセッ
ト
- 9月4日(木) SC 6
- 9月5日(金) SC 16/WG 5, SC 16/WG 6
- 9月9日(火) SC 2, SC 14, SC 16
- 9月10日(水) SC 6/WG 1
- 9月11日(木) SC 1/WG 1, SC 16/WG 1
- 9月12日(金) 規格委員会
- 9月16日(火) SC 5
- 9月17日(水) SC 7, SC 10, SC 11/WG 1
- 9月18日(木) SC 1/WG 1, SC 16/WG 5
- 9月19日(金) SC 5/PL/I, SC 13, SC 16/W
G 4

入 会 者

昭和55年9月の理事会で入会を承認された方々は
次のとおりです(会員番号順, 敬称略)。

【正会員】 谷口倫一郎, 物井秀俊, 轟 潤, 青戸
良, 浅野 稔, 石橋芳子, 伊藤健次, 岩佐政信, 岩代
尚就, 東原敏昭, 内田芳勲, 内野博司, 笠井武郎, 神
白美智子, 加藤勝康, 亀井淳太郎, 河治満夫, 河村敏
明, 草本宗太, 久保岳明, 黒田泰行, 桑原啓二, 小坪
道晴, 小林 博, 斎藤正美, 佐藤哲夫, 佐藤秀樹, 佐
藤寛之, 関根 昭, 関山喜郎, 高橋宏爾, 高村 勲,
土谷健次, 寺本和義, 富田信雄, 富山敬悦, 中西宏
明, 中野武重, 長山秀雄, 橋本健一, 早坂加寿子, 林
慶治郎, 速水光夫, 萬城 実, 藤岡誠一, 古川達夫,
政井賢二, 松木 勉, 松葉健司, 水上 潔, 宮崎義
弘, 安崎康博, 山盛雅男, 我妻輝夫, 和田勲夫, 和田
栄吉, 後藤邦夫, 竹田和夫, 山本芳人, 浅野秀夫, 福
島弘, 熊野 隆, 今西啓二, 鳴坂仁志, 松尾和洋, 辻
哲男, 鈴木正樹, 大高敏孝, 三戸吉夫, 木内 賢, 前
田達彦, 武長憲二, 山本和明, 仲嶺盛文, 草薙 裕,
荒井嘉夫, 中山昇一郎, 恩地幹雄, 佐藤文一, 柴木
浩, 豊田修一, 宮本邦彦, 山崎 哲, 野辺新治, 藤沢
満, 加沼安喜良, 大原順夫, 豊川俊弘, 安納一男, 伊
藤祥司, 山脇文夫, 児島正仁, 和田幸一, 鍵政豊彦,
石川千秋, 本多博隆, 浅野友之, 池崎雅夫, 児玉好
史, 吉田 稔, 葭矢哲司, 武林維章, 首藤友喜(以上
103名)

【学生会員】 八木行雄, 井上英二, 徳永 享, 平川
正人, 中村博文, 茂木安津志, 遠城秀和, 小川直孝,
久野 靖, 西野文人, 丸山 宏, 高嶋邦夫, 大木和
雄, 榎原直仁, 西田健次, 山村雅夫, 佐々木繁, 加藤
英二, 清水達男(以上19名)

昭和 55 年度役員

会 長 小林宏治
 副 会 長 高橋 茂 田中幸吉
 常 務 理 事 飯村二郎 川崎 淳 河野隆一
 平澤誠啓 淵 一博 山本欣子
 理 事 澤田正方 三井信雄 伊藤陽之助
 井上幸美 浦城恒雄 佐川俊一
 瀬野健治 長尾 真 長谷川寿彦
 宮城嘉男 和田英一
 監 事 蔵田 昭 西村真一郎
 関西支部長 萩原 宏
 東北支部長 重井芳治

(ハードウェア分野)

斉藤久太 井田哲雄 浦野義頼
 鍛冶勝三 加藤正男 高井 啓
 田中英彦 仲瀬 熙 中野 治
 山本昌弘 横井俊夫
 (地方委員)
 高島堅助

(アプリケーション分野)

山本毅雄 松本吉弘 浅野正一郎
 海老沢成享 河津誠一 木下 暁
 小柳 滋 高根宏士 武田 学
 田辺茂人 富田正夫 八賀 明
 藤崎哲之助 吉村彰芳 若杉忠男
 (地方委員)
 島脇純一郎

会誌編集委員会

担当常務理事 飯村二郎
 担 当 理 事 宮城嘉男
 委 員 (基礎・理論分野)
 吉村一馬 白井良明 志村正道
 池田克夫 小林光夫 竹内郁雄
 田村浩一郎 戸川隼人 富田悦次
 星 守 渡辺隼郎
 (地方委員)
 木村正行 矢島脩三

論文誌編集委員会

担当常務理事 川崎 淳
 担 当 理 事 長尾 真
 委 員 内田俊一 片山卓也 木村文彦
 鶴保征城 名取 亮 真名垣昌夫
 溝口徹夫 山下真一郎 米澤明憲
 渡辺 担

文献ニュース小委員会

委 員 長 吉村一馬
 副 委 員 長 横井俊夫
 委 員 梅村 護 大蒔和仁 加藤重信
 神野俊昭 木村友則 後藤滋樹
 鹿野清宏 白井英俊 中山信行
 西村和夫 沼田一道 日比野靖
 深沢良彰 松尾一紀 毛利友治
 山本浩通 横矢直和 吉野義行

(ソフトウェア分野)

斉藤信男 杉本正勝 魚田勝臣
 川合 慧 木下 恂 椎野 努
 島田俊夫 鈴木泰次 玉井 浩
 徳田雄洋 西原清一 疋田輝雄
 真汐雅彦
 (地方委員)
 牛島和夫